

平成20年(2008年)12月期 中間決算説明会



コスモ・バイオ株式会社

2008.8.12

www.cosmobio.co.jp

目次

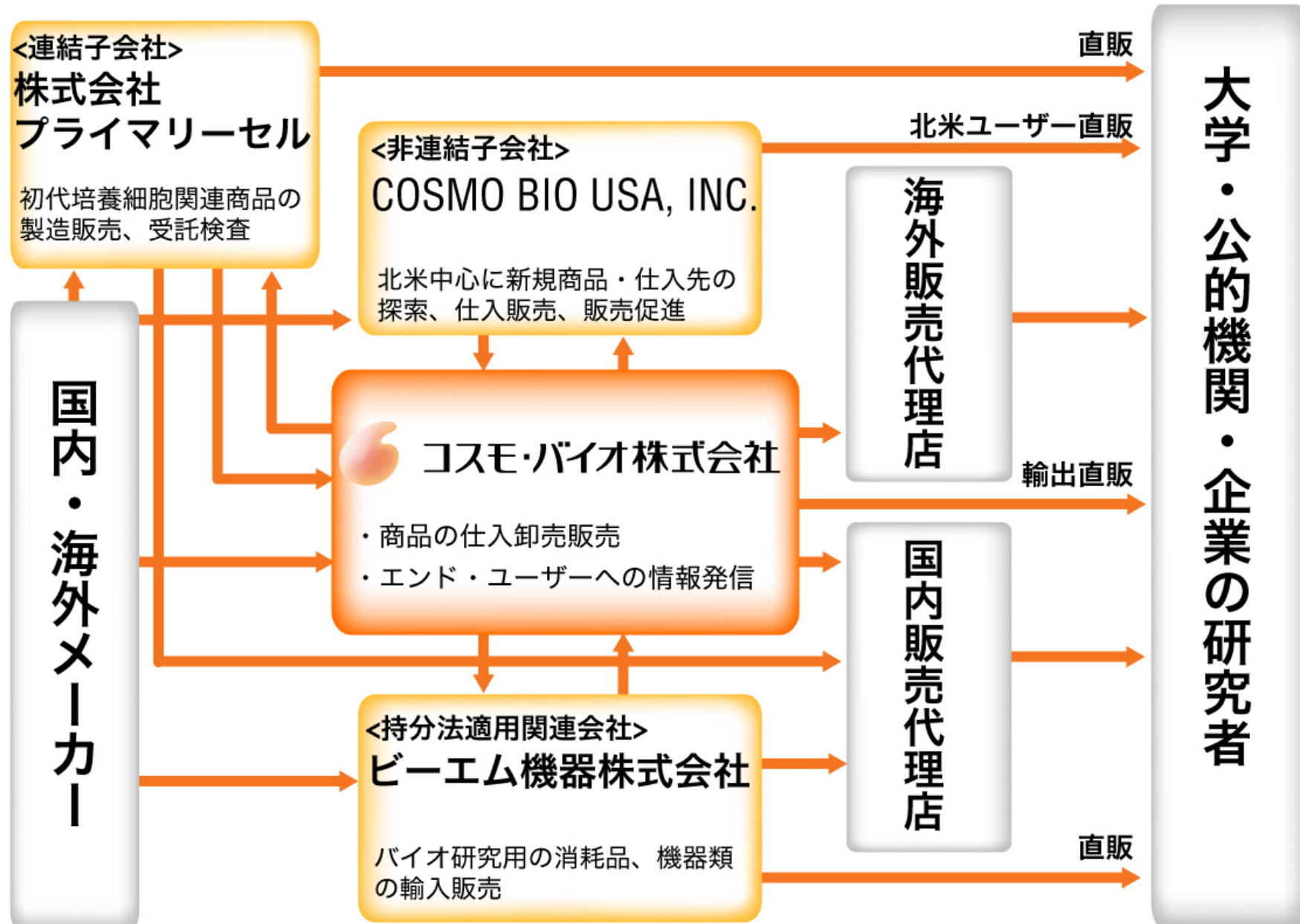
1. 会社概要と事業の内容
2. 2008年12月期中間決算の概要
3. 2008年12月期の見通しと達成状況
4. 今後の事業計画

会社概要

社名:	コスモ・バイオ株式会社
業種:	卸売業
証券コード:	3386
本社所在地:	東京都江東区東陽2丁目2-20
代表者:	代表取締役社長 原田 正憲
設立:	1983年8月
資本金:	918百万円
事業内容:	ライフサイエンスに関する研究用試薬、機器、臨床検査薬の輸出入および国内販売
従業員数:	76名(他パート・派遣社員:27名)(単体)
売上高:	5,906百万円(2007年12月期連結)

ビジネスモデル

「バイオ研究を支援する専門商社」



膨大な商品・情報と多様なユーザーニーズのマッチング

- ユーザーニーズに対応できる70万以上の豊富な商品
- 商品情報をデータベース化し、ユーザーが自在に検索可能
- 各種プロモーションツールによる専門性の高いサービス・情報の提供



バイオ研究とは

医療・健康

- ゲノムやタンパク質の構造や機能解析
- 再生医療、iPS細胞
- 脳や神経系システムの解明
- がんの治療や予防
- 生活習慣病
- アンチエイジング、アルツハイマー

食料

- 遺伝子組換え作物
- 発酵技術
- バイオ食品

環境・エネルギー

- 環境ホルモン
- 生分解性ポリマー
- バイオリアクター
- バイオ燃料

商品説明「代表的な商品」

■ 汎用試薬（バイアル単位で販売）

- 抗体
 - 売上の約40%を占める商品群
 - 商品数約23万品目を取り揃える
- その他
 - ホルモンなどの生体内物質、培地添加剤、ケミカルなど



■ 応用試薬（用途に合わせて試薬等をセットにしたもの）

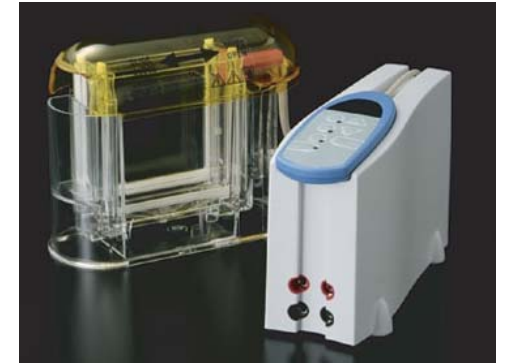
- 遺伝子
 - 遺伝子解析、タンパク質発現等の研究で用いられるキット
- その他
 - 生体内物質や環境汚染物質の検出定量キットなど



商品説明「代表的な商品」

■ 機器

- 小型電気泳動システム「i-MyRun」
- 超音波細胞破碎装置「Bioruptor」
- 倒立型細胞観察マイクロスコープ「セルウォッチャー」
- バーチャルスライド「Toco(トコ)」など



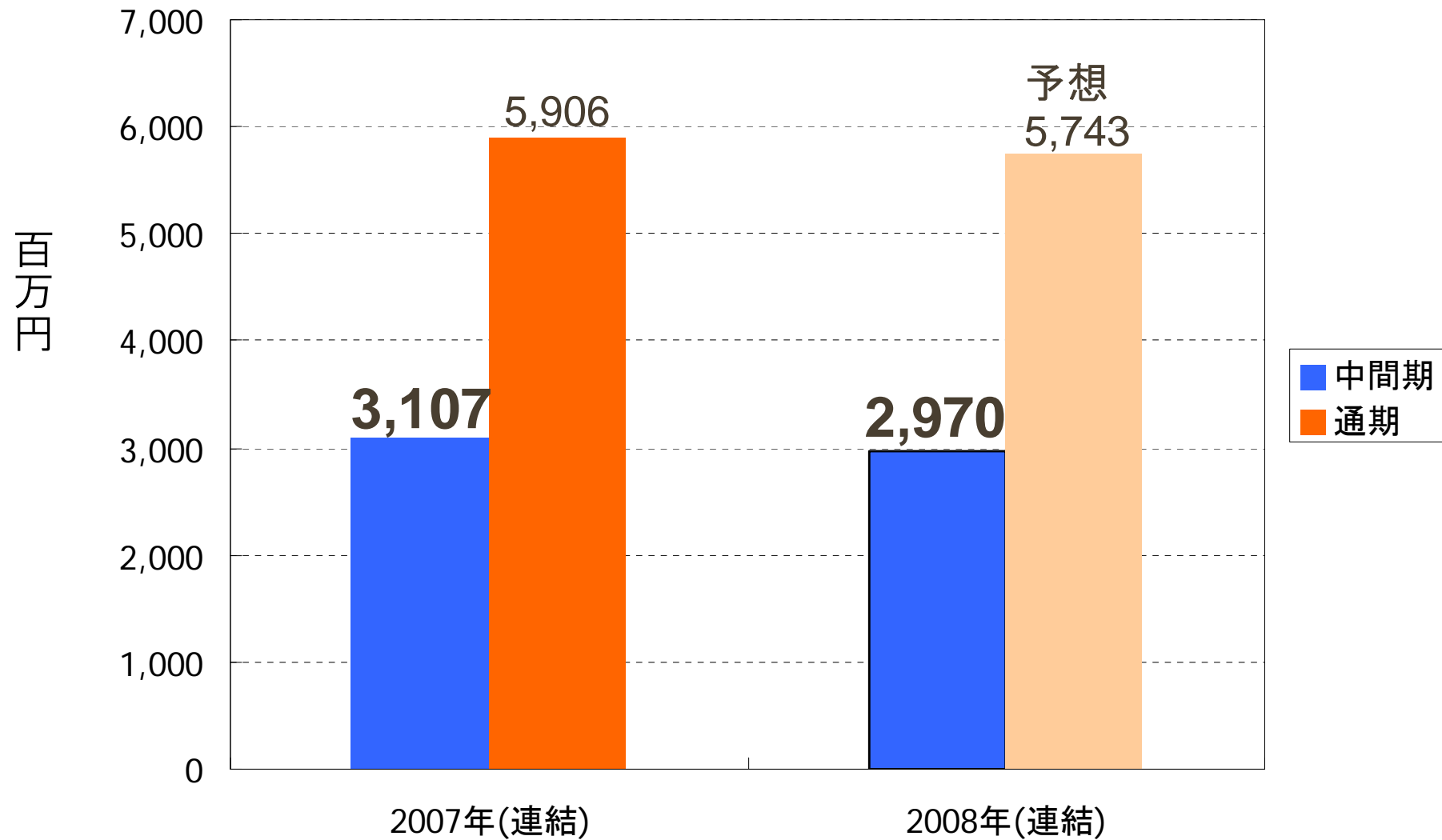
■ 臨床検査薬



2008年12月期中間決算の概要

www.cosmobio.co.jp

連結売上高推移



決算概況「損益計算書(前年同期比)」

(百万円)	2007年		2008年	増減 (▲減)	前年同期 比
	中間期	通期	中間期		
売上高	3,107	5,906	2,970	▲136	96%
売上総利益	1,243	2,256	1,171	▲72	94%
販管費	813	1,672	872	59	107%
営業利益	429	583	298	▲131	70%
経常利益	376	475	306	▲70	81%
純利益	202	243	▲118	▲320	—

特別損失について

当社子会社プライマリーセル社の当社所有株式4000株に係る特別損失

		簿価	評価額	減損額
個別	関係会社株式	368	40	△ 328
連結	のれん	321	40	△ 281

(単位 百万円)

商品分類別売上

	2007年中間期		2008年中間期		増減 (▲減)	前年同期 比
	連結		連結			
(百万円)	金額	構成比	金額	構成比		
研究用試薬	2,845	91.5%	2,704	91.0%	▲140	95%
汎用試薬	1,775	57.1%	1,559	52.5%	▲216	88%
応用試薬	1,069	34.4%	1,144	38.5%	75	107%
機器	170	5.5%	160	5.3%	▲10	94%
臨床検査薬	91	2.9%	105	3.5%	14	115%
合計	3,107	100.0%	2,970	100.0%	▲137	96%

貸借対照表(連結)

(百万円)	2007年12月	2008年6月	増減額(▲減)
総資産	5,302	5,055	▲247
流動資産	3,723	3,508	▲215
固定資産	1,578	1,547	▲31
負債合計	951	1,004	53
純資産合計	4,350	4,050	▲300
株主資本	4,339	4,069	▲270
評価・換算差額等	10	▲19	▲29

キャッシュ・フロー計算書(連結)

(百万円)	2007年 中間 期実績	2008年 中間 期実績	増減額(▲減)
営業活動によるキャッシュ・フロー	343	557	214
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲82	13	95
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲144	▲151	▲7
現金および現金同等物の増加額	119	418	299

3. 2008年12月期の見通しと 達成状況

www.cosmobio.co.jp

2008年12月期中間期業績(連結)の達成率

(百万円)	2008年 中間期予想	2008年 中間期実績	増減 (▲減)	達成率
売上高	3,020	2,970	▲50	98.4%
営業利益	206	298	92	145%
経常利益	191	306	115	160%
純利益	89	▲118	▲207	—

•為替が円高で推移

•ビーエム機器社の持分法投資益

•プライマリーセル社に係るのれんの減損損失

通期業績の見通し

(百万円)	2008年 通期旧予想	2008年 通期新予想	増減額 (▲減)	増減率 (▲減)
売上高	5,786	5,743	▲43	▲0.8%
営業利益	300	431	131	43.7%
経常利益	277	430	152	55.2%
純利益	154	▲39	▲193	—

平均為替レート	2008年中間期	2008年下期(計画)
円/USドル	113円	110円

配当方針

■ 2008年度

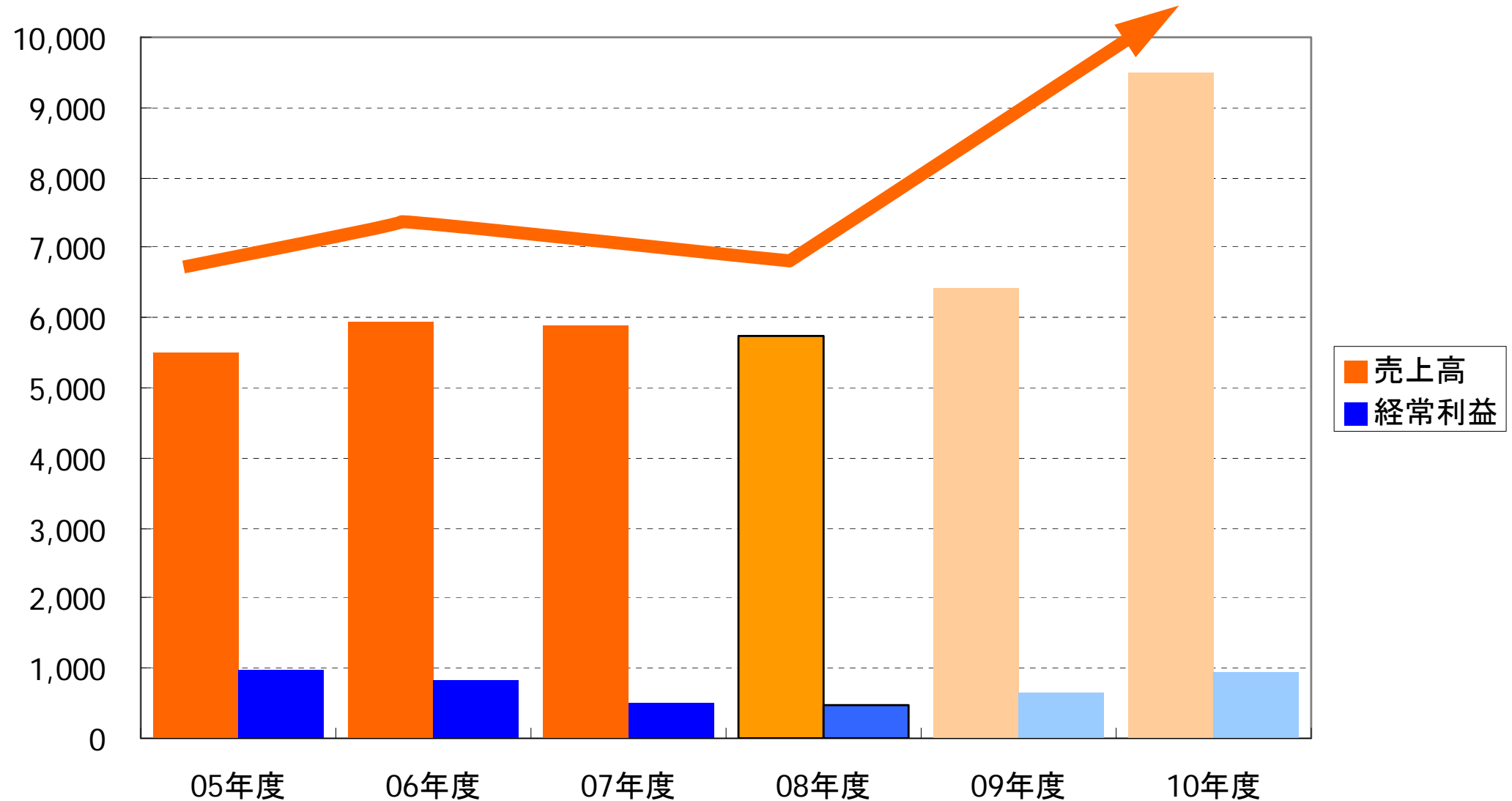
- 株主に対する利益還元は、経営の重要な課題の一つ
- 安定配当を行っていくことを念頭に置き、配当性向を重視しつつ、今後の収益状況の見通しなどを総合的に勘案して決定
- 今般の減損損失の発生は、中長期的な収益構造に影響をしない
- 当期の通期配当(期末配当)として当初予想どおり、1株当たり1,100円を予定

4. 今後の事業計画

www.cosmobio.co.jp

2010年までの売上と経常利益目標(連結)

百万円



2010年目標達成に向けた事業戦略

1. 収益力の強化
2. ブランドの創造
3. 海外展開の加速
4. 子会社、関連会社とのシナジーの創出
5. 投資等

1. 収益力の強化「先端的商品の導入」

■ 先端技術を持った仕入先からの先端的商品の導入

サプライヤー579社地域別構成

● 2008年目標

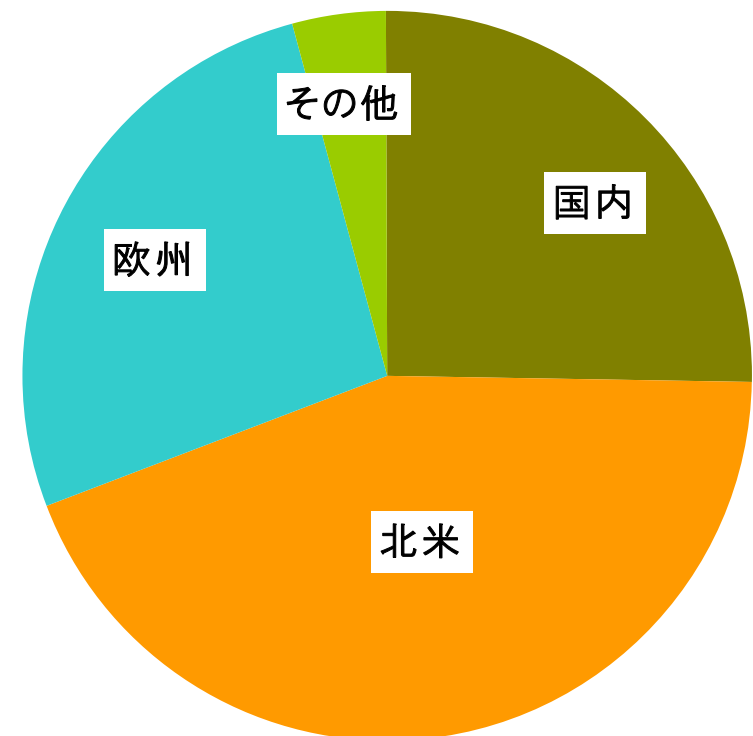
- 新規仕入先：65社以上

● 2008年中間期実績

- 新規仕入先：25社

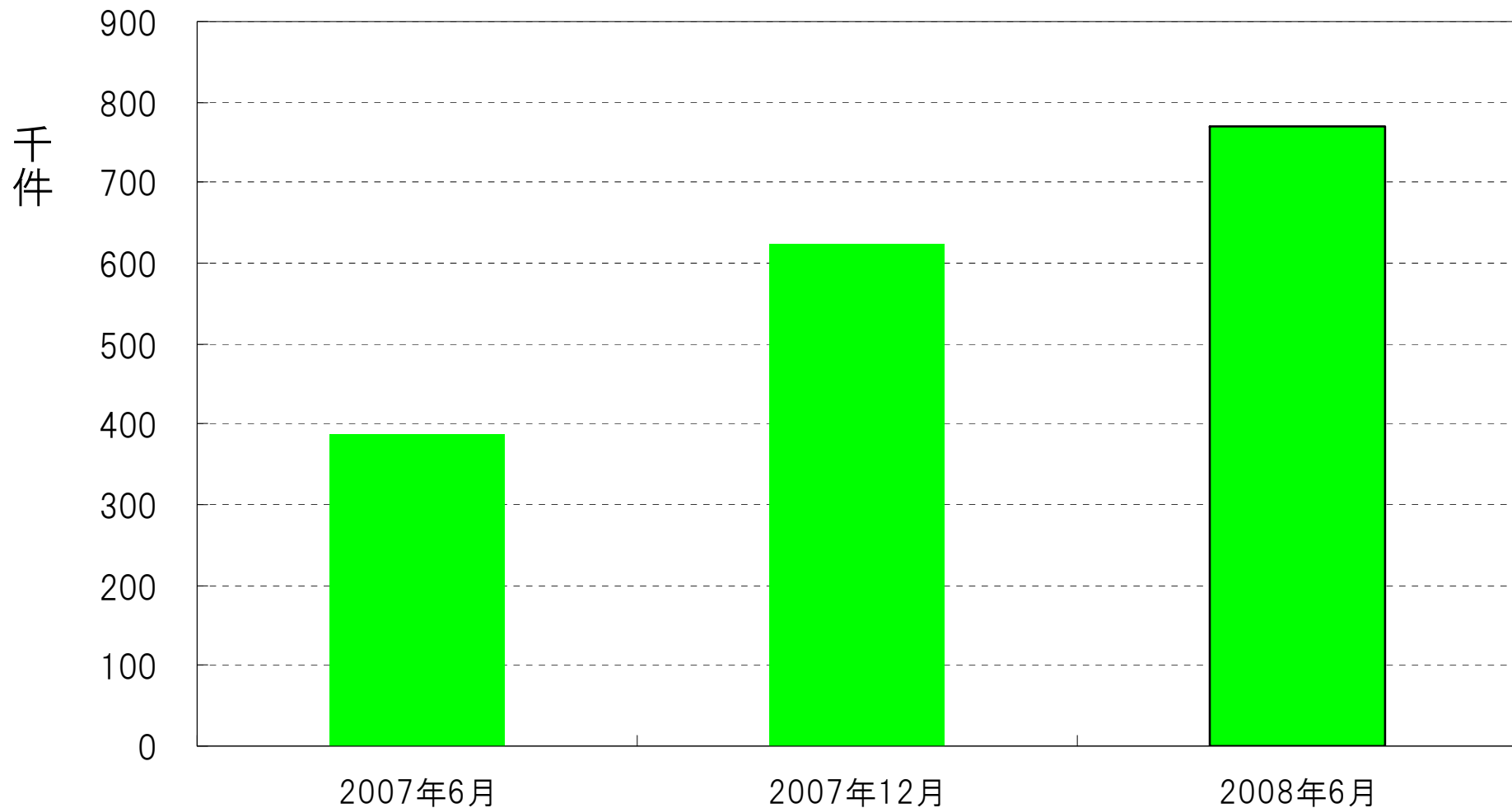
- 仕入先合計：579社

- 米国ルミナス社、加国カイネクス社と日本国内における独占販売代理店契約締結



1. 収益力の強化「先端的商品の導入」

■ 取扱商品数は70万件を超える



1. 収益力の強化 「差別化したサービスと効果的プロモーション」

■ WEB、カタログなどによる技術情報提供

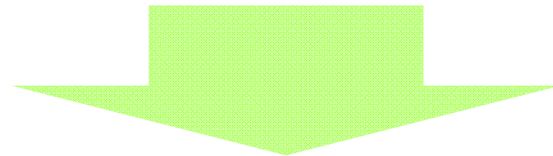


ホームページ

印刷物



- きめこまやかな提案型営業
- お客様窓口による専門的な相談サービスなど



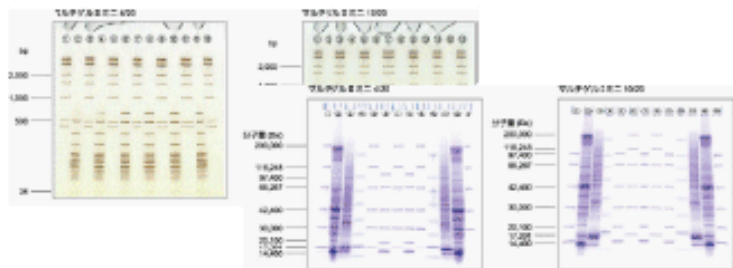
お客様の信頼を得る

1. 収益力の強化「機器販売の強化」

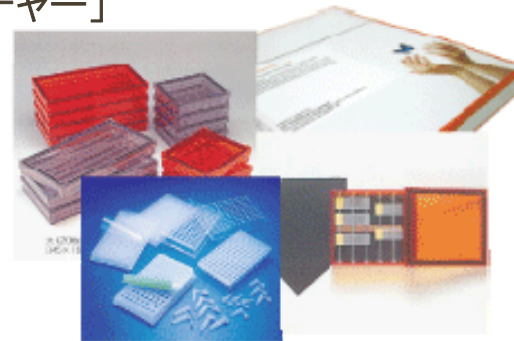
- 関係会社、特にビーエム機器社との連携を強化
- 電気泳動装置、PCR装置、超音波細胞破碎装置など小型の機器を中心に展開
- 豊富な品揃えの消耗用器材を幅広く展開



「セルウォッチャー」



電気泳動用消耗器材



その他消耗器材



ビーエム機器社との
シナジー効果

1. 収益力の強化「細胞事業の強化」

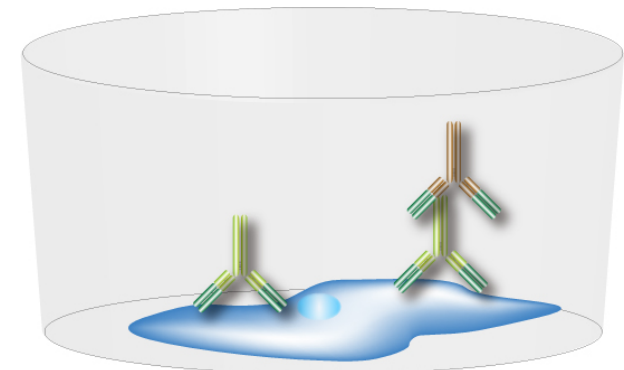
■ 背景

- バイオ研究の注目が、*in vitro* (生体外)から*in vivo* (生体内)へ移行するにあたり、DNA、RNA、タンパク質などの物質主体の研究から細胞主体(セルベースアッセイ: Cell Based Assay)の研究の需要が高まっている
- 糖尿病やメタボリックシンドロームなどの生活習慣病に代表される健康志向の高まり
- 製薬、健康食品、化粧品企業における細胞評価実験への高い需要

1. 収益力の強化「細胞事業の強化」

- 当社の強みを活かし細胞事業を推進
 - セルベースアッセイ構築用の豊富な商品ラインナップ
 - セルベースアッセイの実験系の多くで抗体を使用
 - 子会社のプライマリーセル社とのシナジー効果
 - 動物由来の初代細胞を安定供給できる世界的にも希少な会社
 - 細胞を中心とした各種受託試験サービスを提供

セルベースアッセイとは細胞レベルでの生体反応を調べる検出系全般をいいます



2. ブランドの創造

「質の高い情報発信と顧客サービス」

■ 学術ミーティング

- 3月: 第7回日本再生医療学会ランチョンセミナー
- 6月: デルフィ社テクニカルセミナー
- 7月: Science論文セミナー(後援)
- 今後も「クロマチン・フロンティアーズ・ジャパン」等を開催予定

■ 印刷物

- 電気泳動操作法ハンドブックを4月に発行
- 抗体カタログを6月に発行
- 今後バイオ研究用試薬キットカタログも発行予定



2. ブランドの創造

「質の高い情報発信と顧客サービス」

■ 大学の公開講座等に協賛

- 2008年 第5回 公開講座応援団
- 13の団体に総額約326万円の協賛を決定
- ご要望に応え協賛金の増額も予定



大分大学工学部応用科学科
「夏休み子供サイエンス2007」

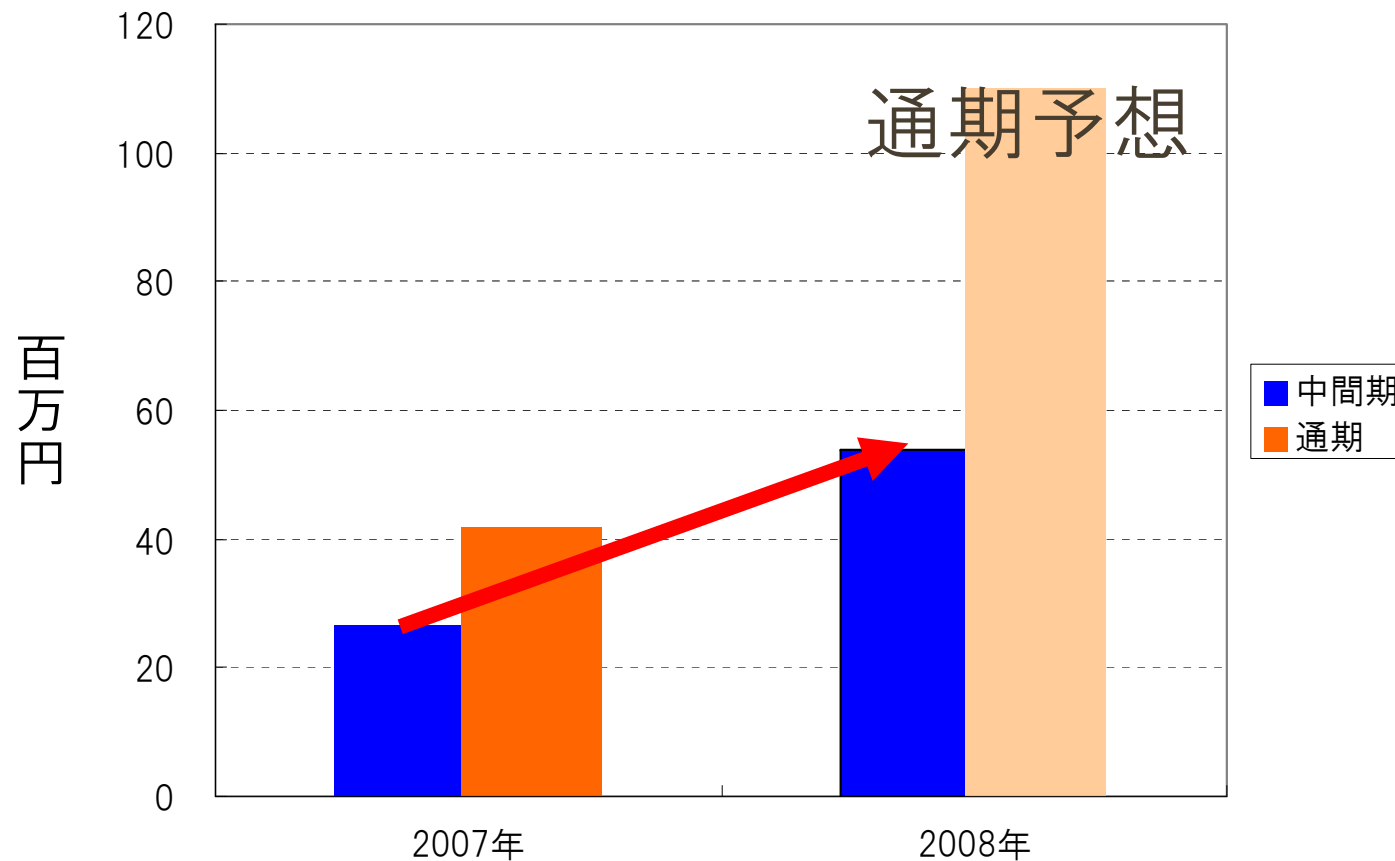
- 秋田県立大曲農業高等学校
- 愛知がんセンター研究所分子腫瘍学部
- 宇都宮大学農学部 附属農場
- 大分大学工学部応用科学科
- 帯広畜産大学
- 九州産業大学工学部理科研究会
- 九州大学農学部 附属農場
- 高知工業高等専門学校
- 東京工業大学 生命理工学部
- 福岡教育大学
- 福島大学システム理工学類
- 北海道大学女性研究者支援室FresHU
- 和歌山工業高等専門学校物質工学科

2. ブランドの創造

■ 自社ブランド商品の充実

● 中間期好調の要因

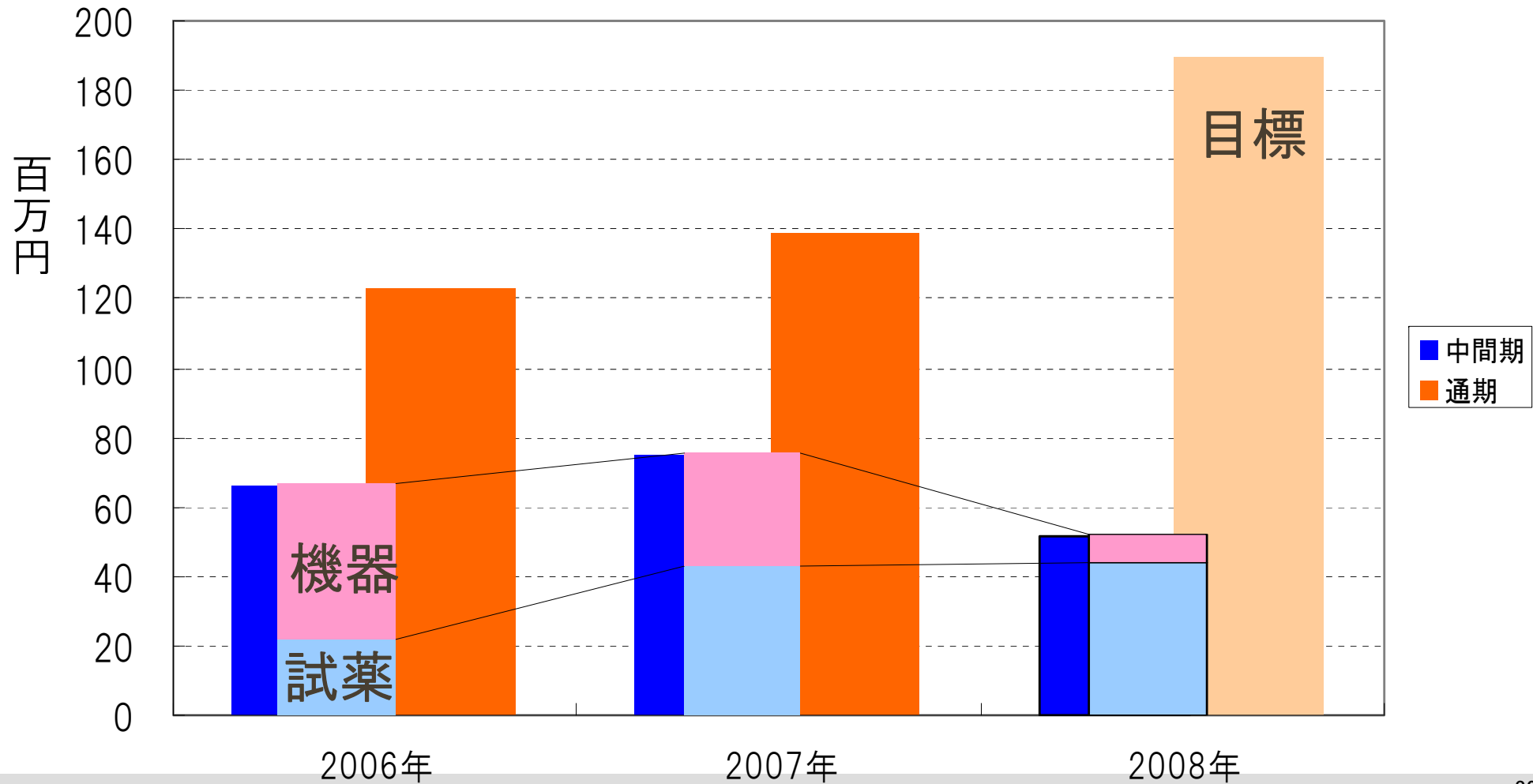
- 高品質自社ブランド商品(*CosmoBio Antibody Collection*など)の開発が順調
- 第一化学薬品社(現積水メディカル社)品の事業承継



3. 海外展開の加速

■ 輸出売上

- 北米を中心に広告活動を強化
- 欧州を中心とした機器の規制の厳格化により機器販売で苦戦



3. 海外展開の加速

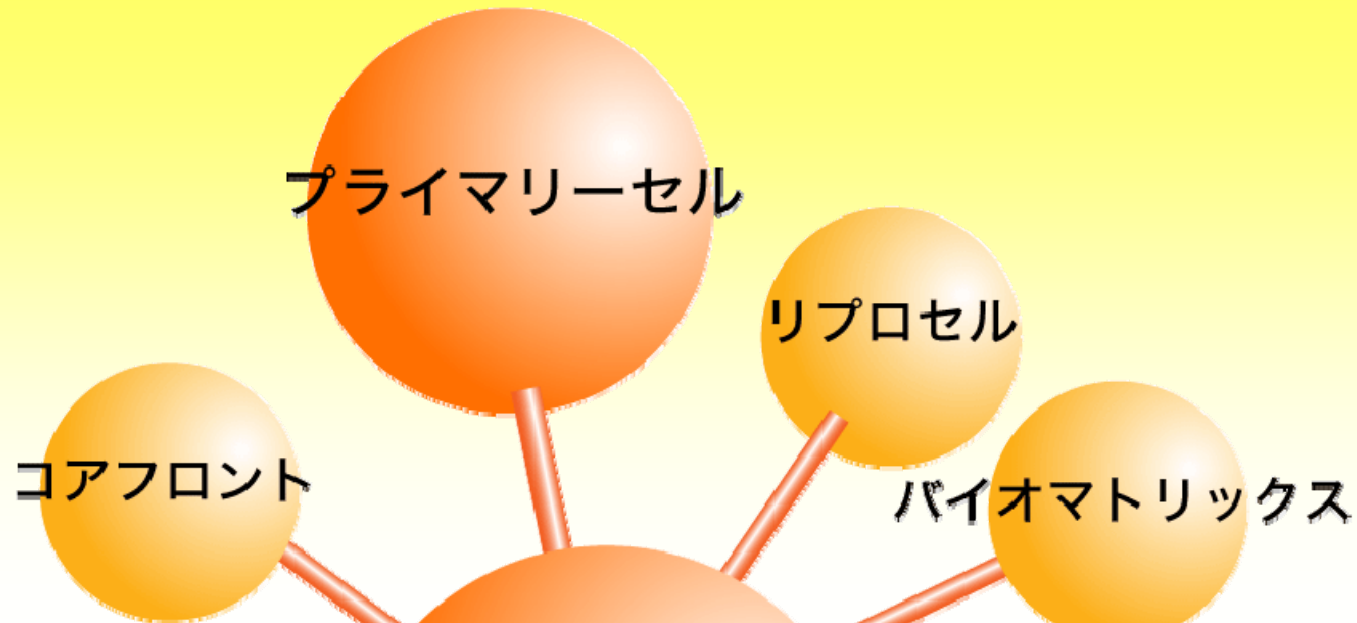
■ 今後の展開

- 販売用商材の開発
- 営業力の強化
- 欧米に加え、インド・中国へも展開



4. 子会社、出資会社とのシナジーの創出

製造



機器販売



海外展開

コスモ・バイオ



5. 投資等

■ 2008年度

- 2008年1月～3月にかけて、逐次、第一化学薬品社（現積水メディカル社）の試薬事業の譲受
- 2008年6月バイオベンチャー育成のためのファンド運営及び施設を提供する、バイオ・サイト・キャピタル株式会社に出資（600株 1500万円 持ち株比率3.5%）
- 今後も機会を窺い積極的に投資を展開

ご注意

- 本資料を作成するに当たっては、正確性を期すために慎重に行っておりますが、完全性を保障するものではありません。
- 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述部分は、当社が本資料作成時点において入手可能な情報から得られた判断に基づいており、リスクや不確実性を含んでおります。実際の業績は、様々な要因により大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おきくださいますようお願いいたします。
- 本資料は当社をご理解いただくために作成されたもので、当社株式への投資勧誘を目的としておりません。